

はなお基だ不完全であるが、Methylnonylketone は芸香料植物精油中に屢々現われるものであり、精油成分によつても本属は決して生れたばかりの新しい属ではなく、古い属の残存である事が充分明瞭となつた。(1954. 5. 31.)

文 献

- 1) Thunberg: Flora Jap., 61 (1784). 2) 篠崎: 工化誌, 24: 563 (1921).
 3) 柴田編: 資源植物事典, 230 (1949). 4) 藤田: 大阪工業技術試験所報告, 303: 65 (1954). 5) 本田, 向坂: 大綱日本植物分類学, 251 (1932). 6) 大井: 日本植物誌, 710 (1953). 7) Diels: Engler; Bot. Jahrb., 29: 423 (1900); 中井: 東亞植物, 57 (1935). 8) 上田, 藤田: 大阪工業技術試験所季報, 5: no. 3. (1954).

〇スキヤクジャク九州(壹岐)に産す(外山三郎) Saburo TOYAMA: *Adiantum diaphanum* Blume, new to Japan (Kyūshū).

1953年の暮、玄海の一孤島、壹岐国の勝本中学校品川鉄摩氏から、同氏が同年10月、同島志原村大原(長崎県壹岐郡)で採集したという *Adiantum* の一品を送られた。みるとそれはスキヤクジャクであつた。あまり珍しいので伊藤洋博士にもお目にかけておいた。品川氏によればこの産地は壹岐の南端に近く、海岸から2k、あまりの地点で道路に面した崖に凡そ10m²にわたつて密生しているという。同島は全体が玄武岩よりなる一つの台地である。このシダは小笠原諸島の硫黄島(今もなお産するかどうかは疑わしい。)と台湾以南のいわゆる南洋に産するものであるがこんどこれが北九州の離島で発見されたことはなんといつても奇蹟というほかはない。

〇千葉縣にシノブ自生す(淺野貞夫) Sadao ASANO: *Davallia Mariesii* Moore. newly found in Chiba Prefecture.

千葉縣には今迄シノブの自生を聞かなかつたが、昭和26年房州、田原村、今の鴨川町に住む自然研究者、太田和茂氏が、同村、大田学地区清澄山系の南側、雑木林の中で自生を発見された。今年7月4日、同氏の案内で実地を見た。量的には少いがケヤキの根元、枯木上を匍い長い分岐した根莖は落葉の下を横走していた。附近にはシイ、ツリバナ、アラカシ、ミツバツツジ、アオキ、マルバウツギが繁り日光が葉間を漏れる程度。下草にはコチヂミザサ、ナキリスゲ、ヤマシロギク、テイカカヅラ、ハコネシダ、ヒトツバが散生している。標本は国立科学博物館に納めて置いた。